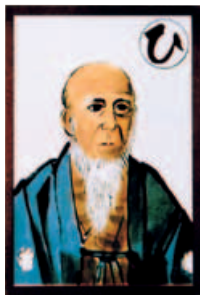


# ～郷土かるたで故郷発見～

戸藩邸で藩士の子として生まれた。六歳にして四書を素読したというから神童であつただろう。十五歳の時に、本居宣長の書を読んで感激し、天保十四年（一八四三）平田篤胤の門にはいった。また服部本清の芙蓉館で漢籍を学んだ。「尊皇の志を懐かしむは元より皇学の賜なり故にその学に親しみて一貫す、いづくぞ宰相これにしかんや」は、二十六歳の時に心を清め「日本書記通釈」の橋を起すに当たつての武郷の決意であつた。「日本書紀」は、奈良時代の養老四年（七二〇）に成立したわが国最初の歴史書である。この史書の通釈に取り組んだ武郷は、伊勢・京都・奈良をはじめ近畿をめぐり地理に精通して、古蹟の実態を見聞した。一生の業とするにはただ漢籍を通じ、皇学や神学の奥儀をきわめる机上だけの学問では満足できなかった。武郷は「日本書紀通釈」の完成には四十八年の歳月を要し、七十巻という非常に大きなものになった。宣長の「古事伝記」と肩を並べられるものである。



## 平田門飯田武郷は書紀通釈

国学が諏訪地方で盛んになったのは、江戸時代の中頃からのことで、それは平田学派であつた。飯田武郷はその頂点に立った人といえよう。武郷は文政十年（一八二七）江戸藩邸で藩士の子として生まれた。六歳にして四書を素読したというから神童であつただろう。十五歳の時に、本居宣長の書を読んで感激し、天保十四年（一八四三）平田篤胤の門にはいった。また服部本清の芙蓉館で漢籍を学んだ。「尊皇の志を懐かしむは元より皇学の賜なり故にその学に親しみて一貫す、いづくぞ宰相これにしかんや」は、二十六歳の時に心を清め「日本書記通釈」の橋を起すに当たつての武郷の決意であつた。「日本書紀」は、奈良時代の養老四年（七二〇）に成立したわが国最初の歴史書である。この史書の通釈に取り組んだ武郷は、伊勢・京都・奈良をはじめ近畿をめぐり地理に精通して、古蹟の実態を見聞した。一生の業とするにはただ漢籍を通じ、皇学や神学の奥儀をきわめる机上だけの学問では満足できなかった。武郷は「日本書紀通釈」の完成には四十八年の歳月を要し、七十巻という非常に大きなものになった。宣長の「古事伝記」と肩を並べられるものである。

**諏訪のいろはかるた (13)**

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介します。

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線262 FAX28-1070  
E-mail jyoho@town.shimosuwa.lg.jp

下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131  
E-mail syougai@town.shimosuwa.lg.jp

下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890  
ご意見・お写真などをお寄せください



万治の背中って大きいね。



頑張って咲いたよ。たんぽぽ



6月の暦  
茅の輪くぐり  
八幡 武義 作

**今月のおすすめ本**  
～町図書館から～

かわ「ごどものとも」傑作集  
福音館書店

山からしみ出た水は、谷川となりくたつていきます。ダムでは川の水をせき止めて、電気をおこします。川は下り、水田を作り人々が多く住む町ができ、河口付近には大きな工場があります。少し昔の日本で、どのように私たちが飲む水や、電気が作られてきたのか、長い道りを経て海に流れ込む川の周辺での人々の生活の様子に分かる絵本です。現在でも、広葉樹の豊かな山から流れ出た水は海にも栄養をもたらしています。  
(渡辺 奈美)

**また素敵な笑顔  
みつけた!**

どんな春でも必ず咲く。  
こんな風になりたいな...



**八島湿原安全祈願祭**

**諏訪湖にきわ 諏訪湖開き**

**長野県市町村対抗駅伝**

**下諏訪町 町の部2位!**